

会 議 議 事 録 (抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第1回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和7年7月18日(月) 18時00分～20時00分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下1階 テラホール
参加者	外 部 委 員：11名(委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者：4名
配布資料	① 会次第 ② 委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 2024 年度年度末成果発表会アンケート ⑤ 2024(令和6)年度の学校関係者評価結果 ⑥ 2025(令和7)年度 第1回学校関係者評価委員会 PP 資料
会議録	1. 開会の辞・事務局紹介 開会宣言 【井坂副校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 2. 学園側関係者挨拶 校長挨拶 【白井校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 3. 委員紹介 各委員の紹介 【井坂副校長】 4. 議長の選出および議長挨拶 会則に則り、島田委員長(エーピージーエム デザインアトリエ)を議長に選出 【井坂副校長】 議長挨拶 【島田委員長】 5. 開催要件の確認 【井坂副校長】 開催要件の確認(総委員の過半数の出席(委員14名、出席11名)) 6. 議事 (1)第一号議案:2024(令和6)年度 第2回会議議事録の確認 【島田委員長】 事務局へ前回議事録の確認指示 【井坂副校長】 前回議事録説明 【島田委員長】 前回議事録内容の齟齬等を確認 【全委員】 全員一致で承認 (2)第二号議案:2024(令和6)年度事業報告 【島田委員】 事務局へ2024年度の事業報告を指示 【井坂副校長】 報告者白井校長を指名 【白井校長】 2024(令和6)年度事業報告 ≪はじめに～専門学校を取り巻く状況・2020年の教育改革とその影響～≫ 高校教育の改革 大学入学者選抜の改革 大学教育の改革 専門職大学制度 高等教育の無償化

リカレント教育の充実

基本方針.1／共感される学校づくり

1-1 学生募集に関する報告

「ポートフォリオの多様化を推進し、各科ごとに定員を充足させる」

- ・募集施策の改善
- ・留学生募集施策の推進
- ・高専連携事業の推進
- ・企業連携事業の推進によるリカレント層の取り組み
- ・入学者数 383 名・在籍者 605 名の実現

1-2 高専産連携に関する報告

高専連携(教育連携)の強化

- ・都立練馬工科高校 ⇒ 体験Ⅰ授業・インターンシップ(1日間)・文科事業
- ・都立蔵前工科高校 ⇒ 情報授業(1年全級)
- ・私立堀越高等学校 ⇒ 探求授業・文科事業
- ・私立秀英高等学校 ⇒ 探求授業
- ・都立六郷工科高校 ⇒ 文科事業
- ・都立多摩工業高校 ⇒ 文科事業
- ・埼玉県立新座総合科学高校 ⇒ 情報授業・インターンシップ(6日間)
- ・理科担当教員向けセミナーの実施 ⇒ 8/7 実施
- ・県立神奈川工業高等学校 ⇒ 日本初、『次世代建築リーダー育成コンソーシアム』を設立
7/16、11/11、19、12/20、3/17 連携授業実施

高専産連携(教育連携)の強化

『次世代建築リーダー育成コンソーシアム』

神奈川工業高等学校、東京テクニカルカレッジ建築監督科、清水建設(株)

産学連携による7年間(高校3年・専門4年)の人材育成プログラムを提供

- ・第1回連携授業 清水建設(株)本社にて神奈川工業高校建設科1年80名を対象(7/13)
- ・第2回連携授業 神奈川工業高校(10/31)
- ・第3回連携授業 銀座エリア・豊洲エリアの建築見学 清水建設(株)案内(12/13)
- ・第4回連携授業 トークショー「施工管理者の先輩の経験を聞き出そう」TTC(3/14)

今後の展開

TTC がハブになり、高校と企業をつなげ不足する人材の育成に貢献する。

『大和ハウス工業株式会社×専門学校東京テクニカルカレッジ』

高卒新入社員教育を2年間 TTC が担当。本事業も8年目を迎え、研修生は89名にのぼる。

今後、こうした実績をもとに、他の企業の新入社員研修にも事業を拡大、受入を行う。

基本方針.2／自己改善できる学校づくり

2-1 履修に関する報告／自己改善できる学校づくり

学生の満足度を高め、退学率を5%以内に収める

- ・年間出席率:94.9%
- ・課題発生率: 8.9%
- ・課題残率 : 2.9%
- ・退学率 : 6.4%

2-2 学修成果に関する報告／2024年度の学習成果

①データサイエンス+AI科

Terakoya.AI 主催ビジネスアイデアコンテストにて、「総合優勝」

②IoT+AI科

ヒーローズリーグ 2024、18 作品を出品

③建築監督科

1級施工管理技術者試験 9 名合格

④インテリア科

インテリアコーディネーター試験 4 名合格 44%

⑤Web 動画クリエイター科

Web デザイナー検定、首席合格、2年連続文科大臣賞受賞

⑥IoT+AI科

建設大手熊谷組のインターンシップに参加

新たな学科連携の取り組み

- ①プロジェクトセミナーの発展:1級自動車エンジニア科+バイオテクノロジー科
「バイオエタノールの燃料活用に関する研究」
- ②研究セミナー:1級自動車エンジニア科 + IoT+AI 科
「自動車の制御に関するPython プログラミング実習」
- ③卒業研究:バイオテクノロジー科 + IoT+AI 科
「物体検出アルゴリズム YOLO を用いたコロニー計測アルゴリズムの開発」
- ④卒業研究:バイオテクノロジー+建築監督科
「自己治癒コンクリート(Basilisk MR3)に関する微生物の検討」

⇒DX 社会をワクワクさせる新しい学びの提供へ

- ①TTC+1 教育ラボ TTC+ の設立
- ②TTC+2 分野横断2+2の検討

2-2 学修成果発表に関する報告/秋季学修成果展示

秋季建築系学科展示(10/25・26)

⇒ 企業・保護者等外部来場者数 62 名

秋季ゲームプログラミング科ゲーム大会(10/26)

⇒ 卒業生 194 名来校

2-3 リアルジョブプロジェクトに関する報告

各科の取り組み(継続課題とともに、新規課題に取り組む)

- ・建築監督科
⇒OC メニュー開発、校舎の修繕提案、業界研究
- ・建築家
⇒校内共用部への提案、知識・技術の研究、調査と提案
- ・インテリア科
⇒男子学生寮の1室(モデルルーム)をリノベーション
- ・情報処理科
⇒ラズベリーパイによりIoTコンテンツの開発
- ・IoT+AI科
⇒1 年生:ヒーローズリーグコンテンツの応募、2 年生:ハッカソンに参加
- ・DS+AI科
⇒学習者のためのクイズアプリ開発、高校テニス部用画像分析アプリ開発等
- ・ゲームPG科
⇒Windows ゲーム作成、ニンテンドースイッチ開発、ネットワークゲーム開発
- ・Web 動画クリエイター科
⇒中野うさぎ飯カレンダー壁紙作成、吉祥寺ハロウィンポスター柵瀬等
- ・バイオテクノロジー科
⇒食品開発、理科実験、環境美化等
- ・環境テクノロジー科
⇒マイクロプラスチック問題、希少生物の保護等

2-4 海外研修に関する報告

建築インテリア海外研修

⇒バルセロナ5泊7日

SISP(アメリカ短期留学)

⇒ピッツバーグ州立大学

2-5 就職活動に関する報告

早期内定(校目標8月末内定80%)現実するとともに 優良企業へ内定を確保

⇒8 月末84%

ディプロマポリシー達成のエビデンスとしての内定を獲得

2-6 学生支援等に関する報告

高等教育の無償化

・2023年度:37名(7.7%)受給 2024年度:40 名(7.6%)

リカレント教育の充実

- ・教育訓練給付金(専門実践訓練)の継続
- ・専門人材育成訓練制度の受け入れ継続
⇒新規で情報処理科とゲームプログラミング科で採用

職業実践専門課程申請

- ・データサイエンス+AI 科
- ・IoT+AI 科

基本方針.3/DX をワクワクさせる学校づくり

3 DX をワクワクさせる学校づくりに関する報告

「新しい技術の時代を楽しむ、ワクワクする学びを提供する」

- 1) 新たな学びを、学校の特徴として「将来構想」に盛り込む
- 2) 中期計画テーマ2の新しい学びの提案を具現化する
 - ⇒分野横断人材の育成、TTC の「ダブルメジャー」はじまる
 - ⇒区分制(専攻科設立→高度専門士付与)の導入検討
 - ⇒分野深堀人材の育成、TTC の「スタートアップ」はじまる
 - ⇒インキュベーションセンター設立の検討
- 3) 「DX」を共通テーマに、学科連携を強化する
 - ⇒それぞれの専門分野の発展の方向性を探り、共有する
 - ⇒関心が高いテーマに関し、専門人材未来会議を開催(学生も参加可)
 - ⇒AI の活用等をととして学科間の連携をはかる

基本方針.4/将来構想の立案

「中長期の視点から、校の経営機能の最適化に向けた施策を立案する」

少子化及び大学全入を背景に定員充足率が50%に満たない学科が増加する等、経営状況が悪化している。そうした状況を改善するため、中長期的な視点から、下記ポイントを中心にゼロベースで校の経営機能の最適化に向けた施策を立案する。

- 1) 収支状況の再確認と採算性に向けた改善策の洗い出し
- 2) 定員充足率50%以下の学科における存廃および改善策に関する検討
- 3) 採算性向上に向けた「学科構成」に関する検討
- 4) 専修学校に関する法改正への対応(法改正を学内改善の好機とする)
 - ・単位制の導入の検討(必要性和負担の両面から検討を行う)
 - ・区分制導入の検討
 - ・補助金・助成金等の再検討
- 5) DX 社会をワクワクさせる学校づくりにおける、新しい学びに関する検討(前項4・区分制導入の検討とも連動)

4-1 「専修学校に関する法改正への対応」

専修学校専門課程の入学資格を大学と同様の規定とする。

在籍者の呼称を「生徒」から「学生」とする

大学と同様に学習時間に関する基準を「単位数」により定めることができるようにする

自己点検評価を義務付け、外部の識見を有するものによる評価を受ける努力義務を定める。

4-2 「法改正を機に、学科の見直しを図る」

現状の5期制では単位換算が大学と異なるため、学期を4期制に切り替え、単位数の整備と科目数の減少を図る。加えて、学科コンセプト・授業内容等の見直しを実施。

(4)第三号議案:2025(令和7)年度(取り組みに関する評価および意見交換)

基本方針.1/基幹事業実施と次期計画立案

(1)本年度基幹事業の実施

- ①4期制への移行
 - ②通信課程建築科の設置・開講
- ⇒学則変更届提出

(2)次期計画の立案

- ①環境テクノロジー科の再生
- ②ブリッジエンジニア科の拡充

基本方針.2/共感される学校づくり

- (1)募集施策の改善
- (2)留学生募集施策の推進
- (3)高専連携事業の推進
- (4)企業連携事業の推進によるリカレント層の取り組み

⇒小山学園後援会『留学生サポーターズクラブ』

基本方針.3／自己改善できる学校づくり

- (1) 学生がワクワクする授業・学生生活を提供する。
- (2) わからないを残さない、支援する。(フォローアップ体制の強化)
- (3) 授業の問題点を発見し、より良い授業を提供する。(チェックバック手法の開発)

⇒留学生に対する日本語能力指導・就職先確保が喫緊の課題

基本方針.4／DX をワクワクさせる学校づくり

- (1) 新たな学びを、学校の特徴として位置づける
- (2) 中期計画テーマ2の新しい学びの提案を具現化する
- (3) 「DX」を共通テーマに、学科連携を強化する

⇒教育ラボ「TTC+」の設立・・・2+αの教育で高度化を図る

(5) 第四号議案：(取り組みに関する評価および意見交換)

【島田委員長】

事務局へ審議の趣旨説明の指示

【井坂副校長】

概要を説明

以下、各委員の意見及び学校側の答弁の概要

【岸委員(東中野五丁目小滝町会)】

「学生数の減少がここ数年の課題であったが、今年度はうまくいったとのことで安心している。パイオの先生にはお世話になっており、今年度も学生の実際の体験をふくらませるような体験を提供できれば、W メジャーや研究科など、学生の学びの幅を成約の中で豊かにしていると感じた。学生にとっても将来にとってもプラスになってほしい。」

【三浦委員(株式会社リクルート)】

「入学者が増えてよかった。特に高校生が増えたというのが嬉しい。今年の留学生で一番多い国を教えていただきたい。」

【白井校長】

「今年はミャンマーが多い。」

【三浦委員】

「東京都全体としては、中国が多い傾向なのでミャンマーは意外である。大阪に近い傾向である。退学者の出身高校の特徴があれば教えていただきたい。」

【白井校長】

「通信制高校出身に限らず、メンタルの不調を訴えて退学する学生が増えている印象がある。」

【三浦委員】

「他校でも同様な傾向があり、特に通信制高校出身者へのフォローで悩まれている。」

【白井校長】

「コンソーシアム東京の研修でもメンタルケアについて検討した。良いアイデアがございましたらまたご助言いただきたい。」

【松本委員(株式会社進研アド)】

「対大学を見据えた際、6割の大学では定員割れをおこしており、年内入試も増えた部分もあることで更に競争が激化している。そんな中、2つの方向性があると考えている。1つ目が大学との併修制度を設ける学校も増えてきている。併修制度があることで学士が取れる。大学思想に沿わせていくこともニーズに対応できるのではない。2つ目が、専門学校としての魅力を研ぎ澄ませること。とにかく特徴を際立たせ、総合力では大学に勝てないが、特定の分野・領域で負けないようにすることが重要である。今回、コンセプトを見直した点も評価できる。」

【杉岡委員(株式会社グッドニュース)】

「通信制課程設立は学校の非常に強みとなる方針だと感じる。中学・高校でも通信制課程に通う生徒が増えている。また、職場においても在宅勤務も増えており、そういった部分で通信への移行している流れをよく捉えている。また、電気工事士のニーズが高まっている中で、人材不足は否めない。ガス・電気・上下水道での勤務は、より中等教育でも伝えていくべきある。実現には、学校と企業との連携だけでなく、官公庁との連携もできないか。最後に、留学生の就職も安心して就職できる環境づくりも一緒に進めさせてください。」

【佐々委員(特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ21)】

「いろいろな立場の方のことを考えていることを感じます。新しいことをする際に、別の部分を整理するということは経営的にも健全な考え方だと思います。環境テクノロジー科の卒業生たちはライフラインを守る重要な職を担っているので、高校生に向けて入口はソフトにわかりやすく呼び込み、出口はしっかりと骨太になるような人材を輩出して欲しい。他の分野もちろんですが、水といたら TTC と言われるような環境テクノロジー科になるとよい。TTC ラボに関しても、シニア世代でも学び直し希望者が増えているため、シニア世代もターゲット層になるとよい。」

【中山委員(有限会社イブシロン／東京商工会議所 中野支部)】

「RJP の初期から見えてきているが、高専産、学科横断と歩みを止めずに進化しているのがすごいと感じた。また、通信制設立も目新しく面白い。オンラインやオンデマンドは非常に有用性、将来性、自由度も高いので、常に進化させられるように感じる。登校に抵抗のある若者が増えている側面から新しい課題も見えてくるようにも感じる。すぐに結果が出ないかもしれないが、中長期的に結果が出るように思える。」

【阿井委員(ゲームプログラミング科保護者)】

「保護者の視点から、オープンキャンパスにも何度も通って入学を決めたが、当初よりも入学者、特に留学生も増えており、多くの交流ができることは子どもにとって良いことだと思う反面、人数が増えることによって授業の密度に影響はないか。また、就職活動と勉強との両立ができるのか不安である。」

【井坂副校長】

「ゲームプログラミング科の話をしますと、現在の人数は過去の在籍人数と比較すると決して多くはないため、人数増加による教育の質の低下はないかと。」

【白井校長】

「留学生増加による影響は少なからずあるかもしれないが、近年どの職場でも国際化が広がっている。グローバルな環境はよいことだと考えている。就職活動に関しては、1年生のころから就職プログラムを設けており、指導も行っております。不安がありましたらすぐに対応いたしますので担任相談してください。」

【藤沼委員(NEC ソリューションイノベータ株式会社)】

「環境テクノロジー科の件は、当時環境コースにいたこともありさみしい部分はあるが、事業を行っていく上では、その決断も重要だと思う。当時難しいと感じたのは、就職先が見えづらかった部分が正直ある。大学との連携はよいのではないと思う。TTC とのコラボレーションや編入制度を見直してみるとよい。若い世代は自分の将来を考えるのが難しいところもあり、TTC ラボのことも含め、将来への道しるべができるとよい。」

【澤坂委員(株式会社社 Artisan)】

「退学率を5%以内に抑えるという目標ですが、次回以降日本人学生と留学生で分けて出していきたい。留学生の割合も増えており、経済的理由など学校側の努力ではどうにもできない事由での退学が増え、正確な数値が算出できない可能性がある。また、新科の成果を教えていただきたい。」

【白井校長】

「滋賀大学との共同コンペで総合優勝を果たしたことは成果の一つだと考えている。成果とは離れるが、Exercode などの AI からのサポートで学べる教材なども出てきている。そういった事も含めて、我々の既成概念の見直しも大切だと考えている。試験での AI 対策も必須となってきている。AI リテラシーも実施していく方針である。」

【澤坂委員】

「AI リテラシーに関しては、学習モデルの AI に対してのリスクを理解せずに使用する新卒もでてきているため非常に重要である。」

【常井委員(株式会社 Mizuiro)】

「自身も学生時代に海外研修に参加しており、それと比較すると研修費用の影響が研修日数が少なくなっていたのが印象的だった。逆に海外から日本へは来やすい状況なので、国際交流が増えれば良いと思う。また、他校と合同学校説明会を行い、TTC が中心になって専門学校を PR できるとよいのではないかと。最後に自身も経験したが、働きながら学ぶというのは非常に大変なため、ゆとりのあるような教育運営ができれば需要があるのではないかと。」

【島田委員長(エーピージーエムデザインアトリエ)】

「高校・企業との連携やリカレントなど幅広く取り入れている。社会情勢に合わせた教育カリキュラムがなされていて良いと思う。講師の立場からの質問で、学科横断について学生手動なのか、教員手動なのかお聞かせいただきたい。」

【白井校長】

「学生から学生であったり、教員同士であったり、様々なケースがある。」

	【島田委員長】 「学生同士で他の学科とコラボレーションをするだけでも教育としても深みがでてくる。また、学科コンセプトの見直しも良いが、他の非常勤の講師には伝わっていない部分もあるので、より共有していくとよいのでは。TTC ラボに関しても今後の展開が気になるところである。」 7. 閉会の辞 【井坂副校長】 「次回の委員会は、2025年12月4日(木)に実施予定となっております。また、2025 年 10 月 25 日(土)には学園祭と成果発表会、よるテラを同時開催予定となっておりますので、ご都合が合いましたらご参加いただけますと幸いです。」 【井坂副校長】 閉式挨拶 以上
--	--

議事録署名人

印

印